

お客さまに安心してご利用いただくために

For Your Safety

1 ホーム上の安全対策 1

- 在来線駅の安全対策
- 新幹線駅の安全設備



2 踏切の安全対策 4

- 踏切支障報知装置
- 踏切監視カメラ
- 踏切障害物検知装置



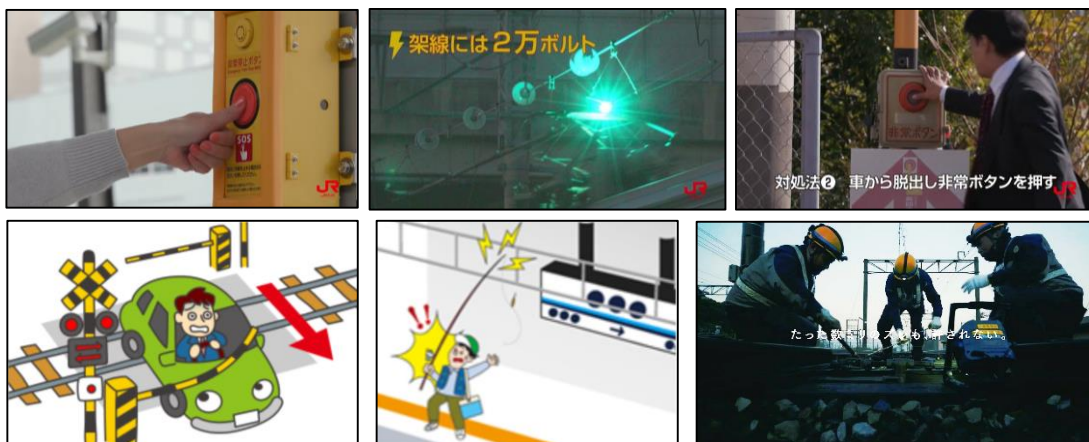
3 お客さま・地域のみなさま・関係機関のみなさまとの連携 6

- お客さまの声に基づく設備改善事例
- 「声かけ・サポート」運動の展開
- 踏切事故防止の取り組み
- 鉄道テロ・防犯対策の実施
- 緊急時の備え



4 安全へのお願い 10

- 踏切事故
- 倒木による事故
- 感電事故
- 鉄道近接工事による事故
- 安全へのお願い動画集
- 安心・安全への取組動画



① ホーム上の安全対策

在来線駅の安全対策

JR九州では、ホーム上の安全対策として、次のような取り組みを実施しています。

- ・列車接近時の自動放送の整備(随時拡大)
- ・注意喚起看板の設置
- ・ホーム固定柵の設置
- ・列車非常停止装置(SOSボタン)の設置
- ・視覚障害者誘導ブロックの整備(内方線付き点状ブロックの設置箇所を随時拡大)
- ・ホーム下の「待避スペース」の確保やホームに上がるためのステップの整備
- ・転落防止用の櫛ゴムの設置(車両とホームが離れている箇所の転落対策)

※さらなるホーム上の安全性向上のため、2018年度に筑肥線九大学研都市駅にて、軽量型ホームドアの実証試験を実施し、実用性を確認しました。また、2020年度に筑肥線(下山門駅～筑前前原駅間)の6駅へ導入し、九大学研都市駅と合わせて合計7駅で稼働しています。



[列車非常停止装置]



[ホーム下のステップ]



[櫛ゴム]



[ホームドア(九大学研都市駅)]



[ホーム固定柵(笹原駅)]

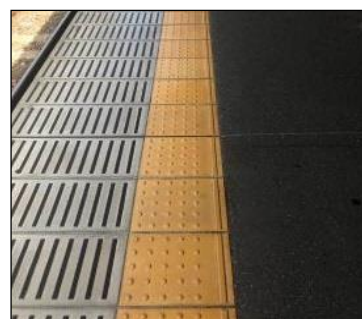
●内方線付き点状ブロックの設置状況

内方線付き点状ブロックについては、対象の120駅のうち、2020年度末までに110駅に設置しています。

今後も未設置駅への整備を順次進めてまいります。

○乗降 1日当たり1万人以上 : 38/39駅に設置

○乗降 1日当たり3千人以上1万人未満 : 72/81駅に設置



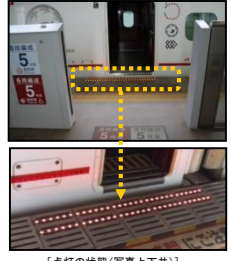
[内方線付き点状ブロック]

① ホーム上の安全対策

新幹線駅の安全対策

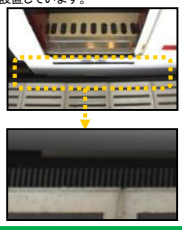
転落防止の注意喚起

お客さまに安全に乗り降していただくため、ホーム上に点滅式LEDライト(スレッドライン)を設置しています。



転落防止用櫓ゴム

ホームと車両との隙間が比較的大きい乗降口にて、隙間を小さくするために「転落防止用櫓ゴム」を設置しています。



転落検知装置

一部の駅においては、ホームと車両の隙間から、ホーム下へお客さまが転落した場合に備え、係員に対して警報音と赤色灯で異常を知らせるための転落検知装置が設置されています。



ホーム可動柵

ホームから線路内への転落防止や通過列車の風圧を防ぐための可動式の安全柵を設置しています。



安全確認のためのカメラ

ホーム上の安全確認を行うために、ITVカメラを設置しています。



安全確認のためのモニター

列車を駅から出発させる際に、ドアやホーム上の安全を確認するための設備です。ITVカメラの画像を映し出しています。



非常停止ボタン
(列車防護スイッチ)

線路内への転落や列車の安全運行に支障をきたすような緊急時に、列車を停止させるための設備です。九州新幹線の各駅で約50mおきに設置しています。



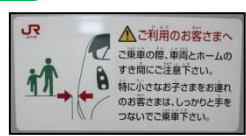
障害物検知用
光電センサー

一部の駅では、お客さまがホームと車両の間にいるときは、可動柵が閉まらないようにするため、センサーを設置しています。



注意喚起シール

ホームと車両の隙間が比較的大きい箇所には、注意喚起のためのシールを貼っています。



② 踏切の安全対策

踏切を安全に正しく通行していただくため、さまざまな安全対策を実施しています。

踏切警報灯の視認性向上

踏切警報灯増設のほか、踏切警報灯の視認性を向上させた全方向踏切警報灯(LED形)の導入を拡大しています。



踏切障害物検知装置

踏切内で立ち往生した自動車等の障害物を検知するためのセンサーを設置しています。踏切内の障害物を検知した場合、列車の運転士に異常を知らせます。



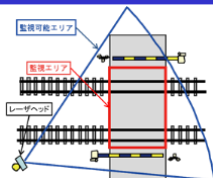
踏切監視カメラ

踏切の正しい通行を監視しています。



踏切障害物検知装置(3D式)

踏切の中にある障害物を立体的に検知する事が出来る装置で、従来のものに比べて、障害物の検知性能が向上しています。新たな障害物検知装置として、一部の踏切に導入しています。



立ち往生対処看板

踏切内で車が閉じ込められたときは自車で踏切のポールを押し脱出できることを記載した看板を設置しています。



夜間の視認性向上

踏切付近に照明を設置して、夜間の視認性を向上させています。



踏切注意灯

自動車の運転手に対して、踏切での一旦停止や左右確認の注意喚起をしています。



踏切支障報知装置

踏切での人や自動車が立ち往生した場合などの緊急時に、踏切に設置している「非常ボタン」を押すことにより踏切内の異常を列車の運転士に知らせます。



連続立体交差事業

連続立体交差事業の中で、関係自治体と連携して複数の踏切の統廃合を進めることで、踏切事故の撲滅を図っています。現在は北九州・長崎の2地区で事業を進めています。



〔北九州〕



〔長崎〕

可倒式ポール

踏切幅の限界を自動車運転手に知らせる目的で、可倒式ポールを設置しています。



踏切の整備

列車と自動車による衝突事故が発生し、又はそのおそれがある踏切には、落輪防止壁の塗色(塗替え等)、路面ステッカーや注意喚起看板等を設置・貼付して踏切の安全確保に努めています。



〔施工前〕



〔施工後〕



〔路面ステッカー〕



〔注意喚起看板〕

[目次に戻る](#)

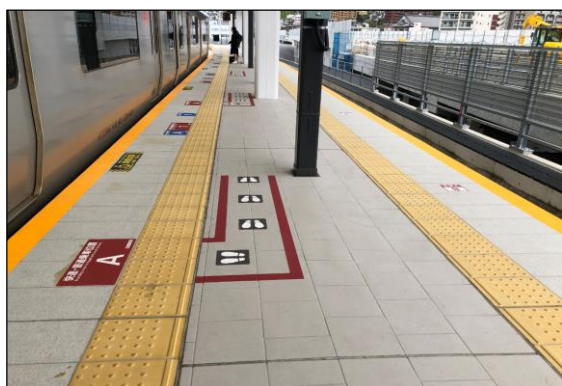
③ お客さま・地域のみなさま・関係機関のみなさまとの連携

JR九州では、お客さまから頂戴するご意見・ご要望をもとに、より良いサービスの提供や改善に取り組んでいます。「JR九州お客さま相談センター」を設置し、電話やメール等で幅広くご意見を承っており、2020年度は6,656件の「お客さまの声」を頂戴しました。お客さまの声に基づき、状況確認と必要な改善・対策を実施しております。

■お客さまの声に基づく設備改善事例

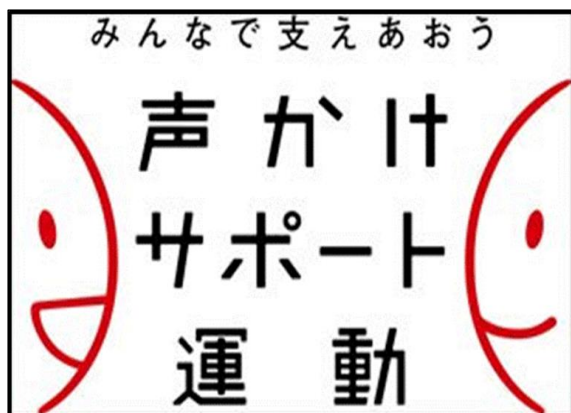
お客さまの声：長崎駅で電車を待つ列を2列にして欲しい。列が伸びると逆側のホームまでいっぱいになって危ないし通りにくい。

対 策：お客さまにホーム中央へ2列でお並び頂くよう足元乗車位置案内を設置しました。



■ 「声かけ・サポート」運動の展開

お客さまが安全かつ安心して駅等の施設をご利用いただくために、お困りのお客さまへ社員から積極的に声をかけるとともに、ご利用のお客さまにもお困りの方に対して助け合いのご協力と呼びかける「声かけ・サポート」運動を実施しています。



「駅掲出ポスター」

■踏切事故防止の取り組み

毎年、春と秋に実施される全国交通安全運動の実施期間中の取り組みとして、「踏切事故防止キャンペーン」を全社的に展開しています。比較的交通量の多い踏切や駅等において、踏切内でトラブルが発生した場合の対処方法などを印刷したチラシとともにノベルティーを配布しています。また、2017年度より毎年2月3日を「踏切の日」と定め、博多駅前広場で踏切事故防止のイベントを開催しておりましたが、2020年度においては、新型コロナウイルス感染予防の観点から、博多駅前大型ビジョンにて踏切事故防止動画の放映を実施しました。その他、駅前広場や自動車学校等において模擬踏切を用いた「踏切安全講習会」を開催し、踏切内に閉じ込められた際の脱出方法について体験していただいたり、九州各県の自動車学校へ踏切事故防止DVDを配布し、指導教材として活用していただいております。



〔踏切安全講習会（模擬踏切使用）〕



〔踏切安全講習会（Web方式）〕

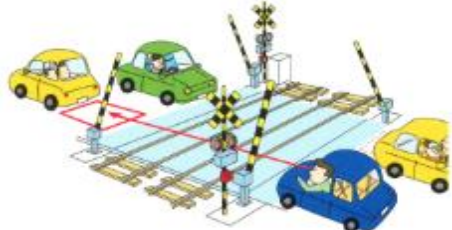


〔2月3日踏切の日__動画放映〕

《 JR九州からのお願い 》

●踏切にさしかかったら・・・

- ① 踏切手前で一旦停止
- ② 踏切の先に自転車スペース確保
- ③ 警報時は踏切内に入らない



●踏切内に閉じ込められたら・・・

〔自力走行できる場合〕

自転車でポールを押し上げて脱出



〔自力走行できない場合〕

踏切の非常ボタンを押すか、
備え付けの発炎筒を使用する



■鉄道テロ・防犯対策の実施

●危機管理レベルに応じた対策の実施

国土交通省等の指導に基づき、社員等による巡回警備の強化、駅構内や列車内における不審物発見時の通報に関するお客さまへの協力依頼の放送や車内テロップ、ポスターの掲出、ゴミ箱の透明化等の対策を行い、テロの警戒にあたっています。

通常のテロ対策



〔車内テロップ〕



〔ゴミ箱の透明化〕

テロ対策（強化時）の一例



〔ロッカーを封鎖〕



〔ゴミ箱を封鎖〕

●防犯カメラの設置

駅構内や一部の鉄道施設、新幹線及び在来線の一部の車両では、車内のセキュリティ向上を目的として、各車両へ防犯カメラを設置しています。



〔800系（新幹線）〕



〔N700系（新幹線）〕



●テロ・防犯対策訓練の実施

テロ発生時及び犯罪等発生時の対応能力向上を目的として、毎年テロ・防犯対策訓練を実施しています。



〔防犯対応訓練（熊本）〕



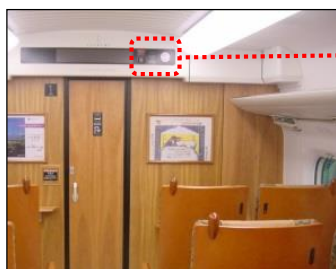
〔防犯対応訓練（大分）〕

■緊急時の備え

列車内や駅、踏切等には、係員に異常を知らせたり列車を停止させるなど、緊急時に使用するための設備を設置しています。

●車内非常用押しボタン(SOSボタン)

車内の客室出入り口上部へ設置されており、乗務員へ車内で異常が発生していることを知らせることができする設備です。



〔800系（新幹線）〕



〔813系（在来線）〕



●車内トイレ内連絡用ブザー

車内のトイレ内で体調不良等になった場合に、乗務員へ知らせるための連絡用ブザーです。



〔N700系（新幹線）〕



〔885系（在来線）〕



●非常用ボタン(ホームドア)

【在来線:筑肥線 下山門駅～筑前前原駅】

■ 非常用ボタン …各ホームドアの線路側に設置しています。

〔ポイント〕

- ・ 非常用ボタンを押下したホームドアのみが開きます。
- ・ 理由もなく非常用ボタンに触れないでください。
- ・ **緊急時が発生した場合に非常用ボタンを操作してホームドアを開けてください。線路内に携帯電話等を落とした場合には非常用ボタンを操作せず、乗務員や駅員に連絡してください。**



筑肥線下山門駅～筑前前原駅のホームドア

【新幹線:全駅】

新幹線駅のホームドアは非常用ボタンはありません。

- ・ ホームドアを開ける場合は、駅員又は乗務員に連絡してください。

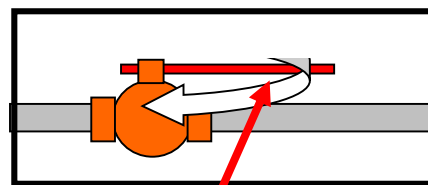
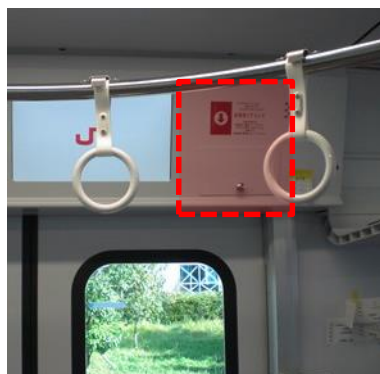
●非常用ドアコック(列車内)

【新幹線・在来線車両】

■ 非常用ドアコック…各車両のドア付近に設置

〔ポイント〕

- ・ 蓋を開けて中のハンドルを手前に引けばドアは手で開けられます。
- ・ **危ないですから、非常の場合以外は外に出ないでください。**
- ・ **係員の指示があった場合にはそれに従ってください。**
- ・ **もし出るときは、ほかの電車や降りる場所にもご注意ください。**



レバーを手前に引く



ドアを手で開ける

●ホームの非常停止ボタン(SOSボタン)

線路内への転落や列車の安全運行に支障をきたすような場合に列車を停止させるための設備です。新幹線駅と在来線の一部の駅に設置されており、このボタンを押すと列車が停止します。



●AED(自動体外式除細動器)

心臓が正常に拍動できなくなった方に対し、一刻も早く対応できるように九州新幹線の全編成や九州新幹線の全ての駅、九州内各県の県庁所在地駅などにAEDを設置しています。



新幹線車両の設置箇所
・800系:4号車
・N700系:6号車
(写真はN700系)

●防護装備品

新幹線車内での刃物等による危険行為が発生した場合に備え、車内に防護装備品等を搭載しています。必要により、車掌等が使用します。



〔防護盾〕



〔耐刃手袋〕



〔耐刃ベスト〕



〔防犯スプレー〕

●医療用具

万が一、お客さまが車内でお怪我をされた場合や体調不良になられた場合に備え、新幹線に医療用具等を搭載しています。



〔パルスオキシメーター〕



〔汎用聴診器〕



〔手動血圧計〕



〔ペンライト〕

※上記のほかに、三角巾、止血パッド、ゴム手袋、油紙、包帯、救急絆、ガーゼ、不織布テープ、消毒液、鋏、ピンセット、とげ抜きも搭載しています。

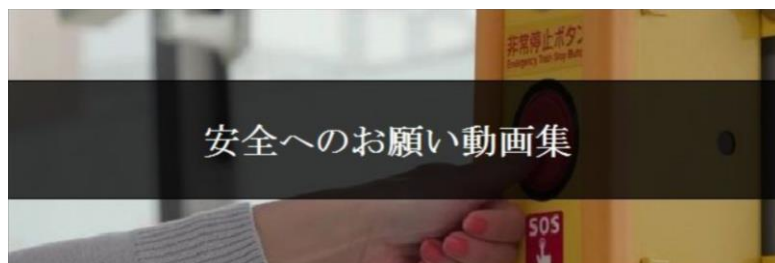
《 JR九州からのお願い 》

- ホームや車内で異常を発見されたら、駅係員や乗務員へお知らせ下さい。
- ホームから転落したお客さまを発見されたら、非常ボタンを押してください。
※線路に降りると大変危険です。

④ 安全へのお願い

下の画像をクリックするか、QRコードを読み込むことで、ホームページ上の安全へのお願いを確認することができます。

安全・安心のお願い・取組動画集



事故防止へのお願い



[目次に戻る](#)



九州旅客鉄道株式会社

編集／鉄道事業本部 安全創造部 2022年1月